

さいたま市文化財時報

かや 樞りぼーと

第30号

街道に今も残りし市のたから

—中山道・日光御成道・赤山道・鎌倉街道を巡る—

「旅は道づれ、世は情け」「千里の道も一歩から」「かわいい子には旅をさせろ」「旅の恥はかき捨て」など「道」や「旅」には実に多くのことわざがあります。それほど、「道」や「旅」は古来から人々の生活に密接にかかわるものだったといえます。

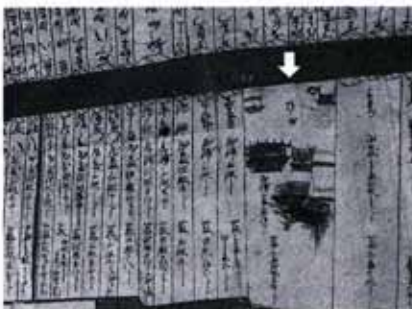
市内にも、かつての都へ通じる道や将軍・武士の歩いた道、さらには名もなき庶民の生活の小路、はたまた現代的な高速道路にバイパスと、実に多くの「道」が縦横無尽に走っています。

今回は、そんな「道」にスポットを当て、それにかかわる指定文化財を紹介してみます。

中山道

一般的には江戸時代初期の慶長7年（1602）に成立したといわれる「中山道」。江戸日本橋と京都を結ぶ中山道69次（正式には滋賀県守山宿までの67次）のうち、市内には浦和宿と大宮宿の2次（宿）がありました。宿場になくてもならないものがまず本陣。参勤交代の大名などの宿泊施設が本陣です。浦和宿本陣（星野権兵衛家、建坪222坪）のあった場所は現在の仲町公園（浦和区）一帯で、公園は浦和宿本陣跡（市史跡）に指定されています。当時を偲ぶ資料はほとんど残存しませんが、唯一、大熊家表門（旧浦和宿本陣表門）が移築され現存（市有形、緑区大間木）。江戸時代末期の建物ですが、屋根瓦に星野家の家紋である「細川九曜紋」が付けられています。星野家は天正18年（1590）の豊臣秀吉の小田原城攻略の際に、岩付城を攻撃する浅野長吉らの先導をしたと伝える家で、長吉からの浦和市に対する禁制や豊臣秀吉からの浦和宿に対する禁制は旧浦和宿本陣文書に収められています（市有形、県立文書館所在）。

浦和宿絵図（市有形、浦和博物館所在）は文化8年（1811）作成の大判の宿絵図で、中山道を中央に大きく



「浦和宿絵図」に描かれた本陣



大熊家表門（旧浦和宿本陣表門）



氷川参道の並木

朱で描き、それに沿う調神社や玉蔵院、一里塚、高札場などの絵も挿入しています。この絵図で鳥居の描かれている位置にあるのが、常盤(浦和区)の慈恵稲荷社。その境内にあるのが浦和宿二・七市場跡(市史跡)。「御免 毎月二七市場定杭」と刻まれる石杭と石祠の市神があり、毎月、ここで二と七の日に市場が開かれていたことを示しています。

また、街道が悪水(下水溝)などを横断する箇所には土橋や石橋が架けられていましたが、現在の浦和橋付近で中山道から西へ分岐する与野道が悪水を渡る所に架けられていた石橋に関わる資料が「奉造立石橋并道普請供養佛」と彫られた浦和宿石橋と供養仏(市史跡、浦和区常盤)です。

さいたま新都心駅前の高台橋を北上すると、間もなく大宮宿。かつての中山道は、大宮宿内では現在の氷川神社の参道を通っていたといわれています。この参道の両側には、ケヤキを中心とした約600本の樹木が並木を形成していますが、そのうち目通り2m以上の大木(指定時)が氷川参道の並木(市天然記念物、大宮区吉敷町など)として指定されています(江戸時代の氷川神社の参道はスギが中心でした)。

4番目の宿である大宮宿の脇本陣9ヶ所は、五街道の中で最多。大宮宿の脇本陣の一つで紀州鷹場本陣でもあるのが北澤家で、宿創建に貢献し、名主役や鷹場鳥見役などを務めました。北澤家文書(市有形、市立博物館所在)はこの家に伝わったもので、江戸時代の大宮宿を物語る貴重な文書群です。

大宮宿を過ぎると、次は上尾宿。京への旅はまだまだ始まったばかりです。

日光御成道

日光道中の脇往還として本郷追分(東京都文京区)で中山道から分かれて、岩淵宿(東京都北区)、川口宿(川口市)、鳩ヶ谷宿(鳩ヶ谷市)、市域の大門宿、岩槻宿を経て、幸手宿(幸手市)の南で日光道中と合流する5宿12里にわたる街道。徳川家康を祀る日光東照宮に将軍が参拝するための道で、いわば特別な街道でした。このうち、大門宿には大門宿本陣表門(県史跡、緑区大門)と大門宿脇本陣表門(市有形)という2棟の江戸時代の建造物が残されています。会田本陣家は紀伊徳川家の鷹場鳥見役などを務めた家柄で、安永5年(1776)の10代将軍徳川家治の日光社参では伊予松山藩主の松平隠岐守がここに宿泊していますが、表門はそれを遡ること約80年前の元禄7年(1694)の建築です。斜め向かい側の脇本陣表門は安永5年の建築と考えられ、姫路藩主酒井雅楽守が宿泊しています。大門宿には本陣・脇本陣が各1軒あったことが知られており、表門のみではあっても、当時の本陣・脇本陣の建造物が両方残っている貴重な例です。本陣家に伝わるのが会田家文書(市有形、県立文書館所在)。日光御成道や鷹場に関する資料がまとまって残っています。



大門宿本陣表門



膝子一里塚

大門宿を過ぎ、6kmほど北上すると、膝子一里塚(市史跡、見沼区膝子)に到着します。日本橋から8里の地にある一里塚ですが、東側のみ現存しています。当初の姿とは少し変わっていますが、塚上には榎が植えられています。

さらに北上すると間もなく岩槻城下。加倉口から入ってすぐ、道の中央には岩槻の市神が祀られていましたが、この市に関わるのが、勝田家文書(市有形、県立文書館所在)。慶長6年(1601)の市掟を最古とする、岩槻城下の市及び市宿町関係の文書群です。

先ほどの膝子の一里塚から2里、岩槻区の北のはずれには相野原の一里塚(県史跡)があります。街道の両側に築かれた5間四方の塚には榎が植えられていましたが、残念ながら、現在は大きく削り取られており、往時の姿を偲ぶことはできません。

赤山道

赤山道は、江戸時代に関東郡代伊奈氏が武蔵各所における土木工事を推進する中で、拠点とした赤山陣屋(川

口市)と現地との連絡・物資輸送のために設けた道路です。方面別に沢山あった赤山道のうち、市域を通過するのが「大宮道」。大宮道は、赤山陣屋に4つあった門番屋敷の一つ「新町口」から東北自動車道を横切り、木曾呂から見沼通船堀近くの八丁堤を通り、大間木・三室へと向います。その途次に存在するのが、旧高野家離座敷(市有形、緑区大間木)。郷里水沢(岩手県)へ向けて逃亡中の蘭学者高野長英が一時期隠れ住んだ所です。その先の通称「さるまん塚」上には寛保2年(1742)の年号を刻む**庚申塔**(市有形民俗、緑区三室)があり、「東ハ赤山道」「西大宮道」の表記は道標も兼ねていたことの証です。

さらに西へ進むと、赤山道は産業道路を越え、与野駅前で「赤山通り商店街」にその名を残しています。その西側はJRの線路やさいたま新都心のビルとなり、かつての面影は残っていません。市立与野東中学校正門前を通過した赤山道は、国道17号線や鴻沼川を横切ると、間もなく与野の本町通りに合流していきます。江戸時代後期、この与野本町通りの街並みを描いたのが**与野町絵図**(市有形、市政情報課所在)。絵図中には圓乗院のほか、蔵造りの建物も描かれています。この圓乗院には、元禄13年(1700)造立の**圓乗院の石造地藏菩薩立像**(市有形、中央区本町西)が安置されています。『新編武蔵風土記稿』にも記載されるように、かつて与野町の上町・中町・下町の区切りには地藏像が建てられていましたが、そのうちのひとつと伝えられるものです。もう一つが、中央区本町東5丁目の路傍に存在する江戸時代後期と推定される**赤山通りの石造地藏菩薩立像**(市有形)。安政2年(1855)の大地震による倒壊と見られる亀裂が残されています。



圓乗院の石造地藏菩薩立像

鎌倉街道

鎌倉に幕府が開かれると、諸国から鎌倉への道、つまり「いざ鎌倉」の鎌倉街道が発達していきますが、市域にも鎌倉街道と伝承される道が存在しています。志木市宗岡から現在の羽根倉橋付近で入間川(現在の荒川)を渡り、国道463号線の埼玉大学前交差点付近で斜めに北上、上大久保の常楽寺前を経て中央区上峰の諏訪神社前を通る道がそれです。これとは別に、鳩ヶ谷市から日光御成道沿いに北上し、大門、綾瀬川の堰橋を渡って、岩槻区釣上から岩槻市街へと通じる道もあったようです。

鎌倉幕府の滅亡後、高師直をめぐって足利尊氏と不和になった弟直義が観応元年(1350)に京都でクーデターを起こすと(観応の擾乱)、武蔵武士の一人高麗経澄は尊氏方としてこの戦に参加し、羽根倉で直義方の難波田九郎三郎を打ち破っています。鎌倉街道が入間川を渡る交通上の要所で、江戸時代には荒川舟運の河岸場も成立する辺りが、**羽根倉河岸跡**(市史跡、桜区下大久保)です。

街道が残したもの

直接、街道に関わる資料のほかに、街道が残した文化財も多く見られます。**日進餅つき踊り**(市無形民俗、北区)は、江戸時代に中山道を通行する大名や武士の宿で旅の慰安と接待を兼ねて餅つきしたのが始まりで、**南部領辻の獅子舞**(市無形民俗、緑区南部領辻)は、平安時代後期、新羅三郎義光が兄の八幡太郎義家を助けるために奥州下向した際の軍兵鼓舞の舞が起源とされています。

また、市の東部に多く残る**円空仏**(市有形)は、生涯で12万體もの木彫りの仏像を彫ったといわれる江戸時代前期の僧円空の作品。延宝年間(1673~1681)や天和2年(1682)、元禄2年(1689)には関東に滞在していたことが知られ、この頃、市内の街道を通行する際に彫られたものと考えられます。

街道が残したものではありませんが、**与野の大カヤ**(国天然記念物、中央区鈴谷)は、室町時代にはすでに関東随一の巨木として知られていたといわれ、推定樹齢1000年。鎌倉街道を通過して「もののふの都・鎌倉」へ急ぐ武士もこの木を見ていたのかも知れません。



与野の大カヤ

TOPIC

- 特別展「さいたまの古墳」において、市指定有形文化財（考古資料）が展示されます。

10月4日(土)から11月24日(月)まで、大宮区高鼻町のさいたま市立博物館において、特別展「さいたまの古墳」が開催されます。側ヶ谷戸古墳群（市指定史跡）や白鍬宮腰遺跡から出土した、市指定有形文化財（考古資料）の人物埴輪や勾玉・ガラス玉・銅鏡などの装飾品ほか、市内の古墳に関する資料が多数展示されますのでぜひご覧ください。

（展示資料を変え、12月6日(土)から来年2月22日(日)まで岩槻郷土資料館においても展示します。指定文化財は展示されません。）



▲乳文鏡（白鍬宮腰遺跡出土）

お知らせ

市内各所において開催されるお祭で、指定文化財が公開されます。また、当課主催の行事も予定していますので、ぜひお出かけください。なお、天候などにより日程が変更することもありますので、詳しくはさいたま市の Web ページをご覧ください。当課までお問合せください。

期 日	名 称	時 間	会 場	内 容 等
10月5日(日)	田島の獅子舞	①15時30分～ ②17時～	①田島氷川社 (桜区田島4-12-1) ②四谷稲荷社 (南区四谷3-7-34)	秋の祭礼は四谷稲荷社でも披露します。
①10月4日(土)～ 26日(日) ②10月29日(水)～ 11月4日(火) ③11月5日(水)～ 11日(火) ④11月18日(水)～ 24日(月)	最新出土品展	①9時～ 16時30分 ②③④ 9時～ 21時30分	①岩槻郷土資料館 (岩槻区本町2-2-34) ②プラザイースト (緑区中尾1440-8) ③プラザノース (北区宮原町1-852-1) ④プラザウエスト (桜区道場4-3-1)	昨年、市内各所で発掘した出土品を展示 (会場によって展示資料が若干変わります) 休館日 ①10/6・14・20 ②③④期間中無休
10月12日(日)	南部領辻の獅子舞	13時～、 15時～	鷲神社 (緑区大字南部領辻2914)	三頭の獅子が勇壮・華麗に舞います。
10月19日(日)	岩槻の古式土俵入り (釣上地区)	14時～	神明社 (岩槻区大字釣上220)	化粧回しを身につけた子どもたちが、古くから伝わる土俵入りの型を演じます。
11月24日(月)	第六回さいたま市 郷土芸能のつどい	12時30分～ 16時	大宮ソニックシティ 小ホール (大宮区桜木町1-7-5)	「木遣歌」「神田の祭りばやし」「岩槻の古式土俵入り(釣上地区)」「円阿弥の万作踊り」「深作ささら獅子舞」が競演します。
12月21日(日)	一山神社冬至祭	14時～	一山神社 (中央区本町東4-10-14)	無病息災・火防などを願い「火渡り」を行います。
12月31日(水)	指扇の餅搗き踊り	23時30分～	五味貝戸自治会館 (西区指扇331)	華やかな万作踊りと餅搗き踊りが一年の最後を締めくくります。
1月1日(木)	日進餅つき踊り	0時～(深夜)	日進神社 (北区日進町2-1194)	年明けの合図とともに賑やかでテンポのある餅つき踊りが披露されます。